第３学年１組　音楽科学習指導案

日　時　平成３０年１０月２６日
場　所　　技　術　室
授業者　教諭　　坂　根　伸　哉

１　題材名　　箏の音色や奏法を生かして、さくらをイメージした旋律をつくろう

２　題材の目標

箏の音色や奏法、平調子による旋律に関心をもち、平調子による旋律や様々な奏法による音色を知覚し、それらによる特質や雰囲気を感受する活動を通して、自己のイメージと音楽を形づくっている要素とをかかわらせながら旋律を創作する能力を育てる。

３　題材設定の理由

（１）題材について

音楽科の第２学年及び第３学年創作分野では、第１学年での学習をふまえ、言葉や音階などの特徴を理解し、自己のイメージや音楽を形づくっている要素とかかわらせながら、それらを生かし表現を工夫して旋律をつくる能力、また、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる能力を高めることが求められている。

日本の伝統的な和楽器は複数あるが、箏は弦を爪で弾くだけで音が鳴るため、和楽器の中でも比較的容易に音を出すことができる。そのため中学生にも取り組み易い楽器である。また、基本的な奏法以外にも弦を押したり、はじいたり、こすったりといった様々な演奏方法があり、奏法次第で多くの音色やその雰囲気を味わうことができる楽器でもある。

本学級の生徒は、３年間を通じて箏の演奏に取り組んでいる。基礎的な奏法については概ね身につけている生徒たちが、表現したいイメージをもち、音楽を形づくっている要素とかかわらせながら、旋律をつくって表現する能力を育てていけるのではないかと考え、本題材を設定した。

（２）生徒について

＜個人情報保護のため省略＞

（３）指導にあたって

本題材では、１、２年生で演奏してきたことを生かし、箏の音色、平調子による音のつながりの面白さを生かして、「さくらさくら」のための前奏を創作する。右手や左手の奏法なども取り入れながら、

奏法による様々な音色、音のつながりや旋律の表情を感じ取り、イメージに合った表現をするためにはどのような音のつながりや奏法を用いたらよいのかを考えさせたい。

指導にあたっては、音のつながりや旋律を知覚・感受するために、４拍程度の短い旋律をつくり、教師とコール＆レスポンスをしたり、ペアで交互に即興的に演奏をしたりする活動をはじめに取り入れる。生徒のつくった旋律の音のつながりや特徴について、教師がよさや面白さを積極的に評価したり、生徒にどのような思いをもってつくったのかを問いかけたりすることによって、旋律づくりについてのイメージと学習への見通しをもつことができるようにしたい。

また、前奏については、生徒たちは言葉では知っているものの、どのようなものであるのかということについてはイメージをもちにくいと予想される。そこで、なじみのある愛唱歌やＪ-POP などから、楽曲の旋律を使用した前奏の例などを紹介し、前奏についての共通理解を図りたい。

さらに、思いや意図をもって旋律づくりにとりくむことができるよう、さくらの咲いている様子にかかわるタイトルも考えることとする。平調子による音のつながり、使用する音（糸）、これまでに演奏をしたことのある奏法などを使い、イメージと関わらせて音楽表現を工夫することができるのではないかと考える。

全体的な支援として、ＩＣＴ機器を用いて、弾き方や創作の過程などを大きく見せてわかりやすくしたり、教師によるモデル等を見せたりしながら課題解決への支援としたい。記譜については、生徒の意見を聞きながら、記録しやすい方法をとっていきたい。これまでに学習した「さくらさくら」の譜面と同様に、五線譜でなくワークシートに漢数字で記入することで、読譜が苦手な生徒も抵抗感なく創作に取り組むことができると考える。

なお、本題材では、ペアで創作活動に取り組む。お互いに意見を出し合って協力して作品を創りあげることを通して、生徒が主体的・協働的に創作を行う姿勢を促したい。

4　学習指導要領とのかかわり

指導事項

Ａ表現（３）創作

ア　言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること

イ　表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。

音楽を形づくっている要素　　音色　旋律　構成

5　教材

さくらさくら（日本古謡）

6　評価規準

（１）内容と評価の観点

	ア）音楽への関心・意欲・態度	イ）音楽的な感受や表現の工夫	ウ）音楽表現の技能	エ）鑑賞の能力
歌　唱				
器　楽				
創　作	○	○	○	
鑑　賞				

（２）題材の評価規準と単位時間における具体的な評価規準

	ア）音楽への関心・意欲・態度	イ）音楽的な感受や表現の工夫	ウ）音楽表現の技能
題材の評価規準	①箏の音色や奏法、平調子による旋律に関心をもち、それらを生かして音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①箏の音色、平調子による旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。 ②知覚・感受しながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律の特徴を感じ取り、音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 ③知覚・感受しながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を感じ取り、自己のイメージとかかわらせて音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	②箏の奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（音のつながり方、記譜の仕方）を身につけて簡単な旋律をつくっている。

（３）指導と評価の計画（全５時間）

時	ねらい	主な学習活動	教材	評価	評価の方法
1	箏の音色や奏法、平調子による旋律に関心をもち、それらを生かして音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組むことができるようにする。	・爪の付け方、音の出し方、姿勢などについて確認する。 ・「さくらさくら」の演奏を通して、箏の基本的な奏法を確認する。 ・平調子による旋律の特徴を生かした音の組み合わせ方について、実際に音を出しながら試す。 ・教師と即興的なリレー奏を楽しむ。 ・学習のふり返りをする。	さくらさくら	ア①	・活動の様子の観察 ・発言の内容 ・ワークシート
2	箏の音色、平調子による旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受することができるようにする。	・前時の学習内容を確認する。 ・後押し、合わせ爪、輪連などの奏法を確認して試す。音楽的な特徴や感じたことについて気づいたことをまとめておく。 ・いろいろな奏法も使いながら、ペアで即興的に表現して楽しむ。 ・前奏について、様々な前奏を聴いたりして、イメージをもつ。 ・学習のふり返りをする。		イ①	・活動の様子の観察 ・発言の内容 ・ワークシート

3	知覚・感受したことをもとに、平調子による旋律を工夫し、どのようにつくるかについて思いや意図をもつことができるようにする。	・前時の学習内容を確認する。 ・学習したことを生かして、左手や右手の奏法を自由に取り入れ、箏の特徴を生かした表現を工夫して旋律をつくる。 ・学習のふり返りをする。		イ②	・活動の様子の観察 ・発言の内容 ・ワークシート
4（本時）	箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を感じ取り、自己のイメージとかかわらせて音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもつことができるようにする。	・前時の学習内容を確認する。 ・自分の「さくら」のイメージを考えながら、箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特長を生かして音楽表現を工夫し、音を出して確かめながら旋律をつくる。 ・ワークシートには、自分の書きやすい方法を選んで記録をし、工夫した点などについても書き留めておく。 ・途中で作品を紹介し、工夫点などを共有する。 ・学習のふり返りをする。		イ③	・活動の様子の観察 ・発言の内容 ・ワークシート
5	箏の奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（音のつながり方、記譜の仕方）を身につけて簡単な旋律をつくることができるようにする。	・前時の学習内容を確認する。 ・作品発表に向けて、自分が工夫したことや、どのように演奏するかについて再確認する。 ・ペアでつくった旋律を発表する。 ・お互いに聴き合い、感じ取ったことや気づいたことを伝え合う。 ・全体で共有する。 ・学習のふり返りをする。		ウ①	・活動の様子の観察 ・発言の内容 ・ワークシート

7　本時の学習

（1）ねらい

箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を感じ取り、自己のイメージとかかわらせて音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもつことができるようにする。

（2）展開

分	○学習活動 ◇予想される生徒の反応	教師の支援	評価規準と方法
3 10	○前時の確認をする。 ○さくらさくらを演奏する。 ◇今日はレベル３に挑戦しよう。 ◇連をきれいに弾きたいな。	・調弦等は指導者が事前に整えておく。 ・必要があれば実物投影機をつかって奏法や楽譜の読み方を確認する。 ・どのレベルを演奏してもよいことを伝える。	
4	○本時の目標と授業の流れを確認する。 例）さくらのイメージに合った旋律を完成させよう ◇ペアでの話し合いがまだ足りない。 ◇先週から変えたい部分がある。	・めあてと授業の流れを掲示することで、視覚的に支援する。	

10	○友達の作品を聴き合う。 ◇花びらが散っている感じを連でだしているな。 ◇音が低いので、夜という感じが伝わるな。	・タブレットでとった前回までの作品を紹介して、工夫している点について気づいたことや感じたことを伝え合う。教師は補足して評価したり、工夫を解説したりする。 ・良い点や工夫している部分などを、実物投影機を使って紹介する。	イ③ ワークシート 活動の様子の観察 発言の内容
20	○イメージに合った前奏にするためにさらに工夫をして、作品を完成させる。	・つくった旋律とイメージの関わりについて音楽を形づくっている要素や奏法に注目していくよう助言する。必要に応じて具体的に例を挙げたり、前時の学習を想起したりする。 ・実際の演奏や記譜された作品の中にある生徒の工夫を見つけて価値を伝えたり、思いや意図をどう表現してよいのか困っている生徒には、例示したりして支援する。	
3	○学習のふり返りをする。	・自分が表現を工夫しようとしたことや、思いや意図をワークシートに記入しておくよう指示する。 ・次回は発表会を行うことを伝える。	

（３）本時の評価

Ａ表現（３）創作

箏の音色や奏法、平調子による旋律、構成などの特徴を感じ取り、自己のイメージとかかわらせて音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。

「十分満足」と判断される生徒の姿の具体例	・さくらの花が散っていく様子を下降する音階を使って表現したり、さらに、強弱や速度なども変化させたりして表現している。 ・「さくらさくら」の旋律の一部を変化させたり、繰り返しを使ったりしてつくっている。
「おおむね満足」と判断される生徒の姿の具体例	・さくらの花が散っていく様子を下降する音階を使って表している。 ・「さくらさくら」になめらかに続くよう、前奏の終わり方を工夫している。
「努力を要する」と判断される生徒への支援	・思いや意図があっても、どのように表現したらよいかわからない。 →個別に相談にのり、イメージに合う音のつながりや奏法を例示し、そこから選んで試してみるように助言する。

（４）授業研究の視点

・教材は生徒の実態を考慮し、主体的・協働的に取り組む態度を育てるのに適切なものだったか。

・お互いに意見を出し合って、創作に取り組むための支援は適切であったか。